

# 2024 年 2月社長会見



2024 年 2月 14日

## 1. 営業・輸送概況

## 2. 山陽新幹線の安全性・快適性の向上

## 3. スマートロッカーを活用した「手荷物配送サービス」の実証実験開始

## 4. 駅を中心としたまちづくり

### 神戸～大阪鉄道開業150周年を迎えるにあたって

詳細

## 1. 営業・輸送概況

### 【運輸取扱収入（速報値）】

収入ですが、1月はコロナ前の2019年比で94.5%、2月は7日までの1週間分で90.0%です。

|            | 前年同日比             |                    |                   |                   |
|------------|-------------------|--------------------|-------------------|-------------------|
|            | 収入計               | 近距離券               | 中長距離券             | 定期券               |
| 1月         | 114.0%<br>(94.5%) | 115.3%<br>(112.4%) | 116.2%<br>(90.1%) | 106.3%<br>(90.5%) |
| 2月 (2/1～7) | 111.6%<br>(90.0%) | 106.7%<br>(110.3%) | 117.2%<br>(84.9%) | 99.8%<br>(86.7%)  |

※実績は直営の速報値。駅などでの取扱高(消費税を含む)を示すものであり、旅行会社での発売分などを除きます。

※ ( ) 内は、コロナ前の2019年同日比。

### 【新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況（速報値）】

次に、ご利用状況ですが、山陽新幹線は、1月が2019年比で91%、2月が7日までで88%です。なお、昨今の人流の回復をモニタリングする指標として、近畿圏における自動改札通過人員をお示ししており、1月が92%、2月が7日までで91%です。1月から2月にかけては、近畿圏のご利用を中心として、引き続き多くのお客様にご利用いただいているところですが、能登半島地震の影響を受け、北陸新幹線と北陸方面への在来線特急については、ご利用が減少している状況が見られます。徐々に回復傾向もうかがえることから、今後のご利用を注視していきます。

約一か月後の、3月16日には、ダイヤ改正を実施いたします。今年は何といたっても、北陸新幹線の敦賀開業がございませう。残り僅かではございませうが、必要な準備を進め、皆様と共に開業を迎えたいと思ひます。

|            | 前年同日比         |               |               |                |               |
|------------|---------------|---------------|---------------|----------------|---------------|
|            | 山陽新幹線         | 北陸新幹線         | 在来線特急         | 近畿圏            |               |
|            |               |               |               | 近距離券発売枚数       | 自動改札通過人員      |
| 1月         | 113%<br>(91%) | 100%<br>(79%) | 111%<br>(78%) | 111%<br>(107%) | 108%<br>(92%) |
| 2月 (2/1～7) | 102%<br>(88%) | 109%<br>(84%) | 99%<br>(82%)  | 104%<br>(106%) | 103%<br>(91%) |

※実績は速報値。近畿圏は近距離券発売実績と自動改札通過人員の前年同日比を併記。

※ ( ) 内は、コロナ前の2019年同日比。

## 2. 能登半島地震への復旧・復興支援の取り組み

### ○ 地震発生直後からの復旧に向けた取り組み

- ・ 鉄道の早期復旧  
七尾線(七尾～和倉温泉)、のと鉄道(和倉温泉～能登中島) ⇒ **2月15日復旧** ※七尾線は全線復旧
- ・ 緊急の被災者・被災地支援  
義援金(石川県3億円、富山県5,000万円、新潟県3,000万円)  
WESTERポイント寄付受付、社員ボランティアの制度整備 など

### ○ 今後の「北陸」の取り組み

- ・ 北陸新幹線金沢～敦賀間開業の告知
- ・ 復旧支援に加え、北陸全体へ足を運んでいただく取り組み

つながる北陸

想いをむすぶ。想いをほこぶ。

- ◆ 新幹線延伸開業の告知展開  
・ 2/16～TVCM、新聞・WEB、駅・車内ポスター等
- ◆ 地域の状況を踏まえながらの送客・地域消費拡大  
・ 「北陸おでかけtabiwaバス」値下げ  
※e5489(京阪神発など)とセット購入で更にポイントバック  
・ 旅行会社と連携した旅行商品の造成  
・ 北陸の観光情報の発信  
・ 北陸地域グループ会社店舗でのポイントバック企画(地域製品の消費拡大)



1月1日に発生した「能登半島地震」については今もなお、多くの方が避難生活を過ごされているなど、その影響は現在も大きく残っています。改めて、被災された方々にお見舞い申し上げますとともに、当社グループとしましても、一丸となって、復旧・復興に向けて全力で取り組んでまいります。

当社グループとしては、大きな被害を受けた七尾線の七尾～和倉温泉間が明日15日に、いよいよ復旧し、七尾線としては全線開通します。また、「のと鉄道」についても、和倉温泉～能登中島間が明日復旧するとともに、4月上旬の全線開通を目指し、私どもとしても懸命の復旧作業を行っているところです。

また、地域の状況を踏まえながらではあるものの、復旧支援に加えて、北陸地域に足を運んでいただくこと、地域での消費、経済活動を促進することも、私たちにできる支援ではないかと考えています。

来月には、北陸新幹線の金沢～敦賀間開業を迎えます。私どもでは、北陸地方が「つながる」事から、人の移動とともに人の想いも繋がっていくという意味を込め、「つながる北陸」というキーワードで北陸での取り組みを展開します。

具体的には、北陸の周遊パスの値下げやポイントバック企画や旅行会社さんと連携した北陸応援プランの発売などを実施します。

まずは、現在の状況で私どもができることにしっかりと取り組みながら、今後、政府の方から出てくると言われている「北陸応援割」などの国の事業とも連動しながら、特に被害が大きかった能登地方について、復旧の状況を見ながらにはなりますが、特段の取り組みができるよう準備してまいりたいと考えています。

また、北陸関係の話題として、別件になりますが、地域の皆様とともに国土交通省に申請しておりました、「城端線・氷見線鉄道事業再構築実施計画」については、2月8日に、申請どおり認定されたところです。

今後、本計画の着実な推進を通じ、地域のまちづくりに合わせた持続可能でご利用しやすい交通体系の実現に向けて、私どもとしても引き続き地域の皆様とともに取り組んでまいりたいと考えております。

### 3. 山陽新幹線の安全性・快適性の向上

次に、「山陽新幹線の安全性・快適性の向上」に関連した事柄についてご紹介させていただきます。

当社は、「中期経営計画2025」において、鉄道事業の更なる活性化に向け、「新幹線を基軸とした鉄道ネットワークの充実と交流人口・関係人口の創出」に挑戦しています。

山陽新幹線では、これまで、様々なサービスの拡充を図ってまいりましたが、新たに、2つの取り組みについてお知らせいたします。

まずは、新製車両「N700S」4編成の追加投入についてです。

#### 東海道・山陽新幹線「N700S」の追加投入

#### 東海道・山陽新幹線「N700S（16両）」を4編成（計64両）追加投入

##### ○投入時期

2024年度～2026年度

##### ○主な特徴

###### [安全性・安定性]

- ・地震時のブレーキ距離短縮
- ・状態監視機能の強化

###### [異常時対応力]

- ・バッテリー自走システムの搭載
- ・防犯カメラの増設、通話装置の機能強化

###### [快適性・利便性]

- ・フルアクティブ制振制御装置の搭載（一部号車）
- ・モバイル用コンセントの増設
- ・車いすスペースを6席設置
- ・車椅子でご利用されるお客様の利便性向上

###### [環境性能]

- ・消費電力量削減



追加投入する「N700S」

「N700S」という車両は、「地震時のブレーキ距離が短縮される」、「バッテリー自走システムを搭載している」、「車いすスペースが増設されている」や「全席コンセントが設置されている」など、車両の安全性向上のほか、車内でお客様が快適にお過ごしいただけるような最新の機能を備えています。

2024年度から2026年度にかけて投入し、主に、東海道・山陽新幹線直通の「のぞみ」号として運用する予定です。

次に、既存の「N700系」の短編成化工事についてご案内します。

#### 山陽新幹線 N700系の短編成化改造工事

#### 山陽新幹線の「N700系（16両）」を8両編成化する改造工事を計4編成で実施

##### ○実施時期

2024年度～2026年度

##### ○主な特徴

###### [安全性・安定性]

- ・地震時のブレーキ距離短縮
- ・状態監視機能の強化

###### [快適性・利便性]

- ・車いすスペースを4席設置
- ・窓側席のコンセント設置



8両編成化（短編成化）改造を実施する「N700系」

##### ○その他

- ・500系6編成中 4 編成は2026年度末までに用途廃止

「N700S」の4編成追加投入に伴い、従来まで「のぞみ」号として運用していた「N700系」16両編成を、8両編成化する改造工事を計4編成で実施します。

この改造工事については、2024年度から2026年度にかけて、博多総合車両所にて実施予定です。

当社では約15年ぶりとなる改造工事ということで、JR他社を含めても珍しい工事ではないかと思います。

当社の車両改造技術・ノウハウを用いて工事を行うことで、若手社員への技術継承と、さらなる技術レベル向上を図るほか、新たに、8両編成車両を購入する場合と比較し、50億円以上のコスト削減を見込んでいるところです。

車両の主な特徴としては、当社所属の8両編成の新幹線として、従来までは1か所だった「車いすスペース」を4か所に増設します。

また、これらの車両は「こだま」号としての運用を予定しており、これまでの500系・700系と比較し、「地震時のブレーキ距離が短縮される」と、「車両の状態監視機能の強化」により、さらなる安全性向上を図れると考えております。

なお、今回の「N700系」短編成化改造により、現在6編成運用している500系のうち、4編成については置き換えるということで、500系が4編成なくなりまして、このN700系の短編成改造車に置き換わるということになります。

今後も、お客様に安心して快適に山陽新幹線をご利用いただけるよう、引き続き、安全性・快適性の向上を図ってまいります。

## 4. スマートロッカーを活用した手荷物配送サービスの実証実験開始

次に、次世代スマートロッカーを活用した手荷物配送サービスについてご紹介します。

### スマートロッカーを活用した手荷物配送サービス「pikuraku PORTER」



### pikuraku PORTER (ピクラク ポーター) とは…

大阪・関西万博の混雑緩和並びに、オーバーツーリズム対策への寄与を目的に、お客様自身がスマートロッカー(無人)を操作して預けた手荷物をホテルまで配送するサービス

トランク預けて、ホテルへ配送。



当社では、様々なパートナーの皆様との共創によりオープンイノベーションを加速させるべく、「JR WEST LABO」において、次世代スマートロッカーを活用した新たなサービスを検討してきました。

本日は、ECサイトで購入した商品をスマートロッカーで受け取る現行のサービス「ピクラク」に続く新たなサービスとして、スマートロッカーを活用した手荷物配送サービス「ピクラクポーター」の実証実験を開始することをお知らせします。

## 手荷物配送サービス「pikuraku PORTER」の利用イメージ



5か国語対応

日本語 English 简体中文 繁體中文 한국어

ご利用になる項目を選んでください

預ける

取り出す

ホテルに送る

残高照会

領収書の発行

お問い合わせ

配送先エリアを選択

選択中の駅 12345

梅田エリア  
梅田駅・大阪駅

梅田エリア  
梅田駅・大阪駅

梅田エリア  
梅田駅・大阪駅

梅田エリア  
梅田駅・大阪駅

梅田エリア  
梅田駅・大阪駅

梅田エリア  
梅田駅・大阪駅

梅田エリア  
梅田駅・大阪駅

戻る 操作をやめる

※ロッカー操作パネルのイメージ画像です

このサービスは、お客様が、概ね午前中までに駅などに設置しているスマートロッカーに荷物を預けていただくと、夕方までに宿泊先のホテルへ手荷物を配送するというものです。

お客様は、無人のスマートロッカーの表示パネルを操作いただき、手荷物を預け入れ、宿泊されるホテルをご指定いただくことで、手ぶら観光をしていただけます。

キャリーケース等の大きな荷物を持ち歩くことなく、手ぶらで目的地や観光地に移動することができ、昨今のオーバーツーリズム対策として社会課題の解決にも寄与できるものと考えています。

### 各エリアでのサービス開始予定

○尾道エリア：3/4～



○大阪エリア：3/30～



「大阪・関西万博2025」に向けて、その他の駅への設置やサービスの拡大を検討

まず、尾道エリアでは3月4日から、大阪エリアにおいては、3月30日から、実証実験を開始いたします。

尾道エリアでは、尾道駅や尾道港、瀬戸田港へスマートロッカーの配置を予定しており、ロッカーからホテルへの配送サービスを検討しております。

尾道エリアを訪問する方々が、「しまなみ海道」へのサイクリング等を簡単で快適にお楽しみいただければと思います。

また、大阪エリアでは、主に大阪駅や新大阪駅等に、スマートロッカーを新たに設置するとともに、大阪環状線の複数の駅においても、順次導入し、同サービスの展開を検討していく予定です。

ここでは、関西を訪問される多くの方に、手ぶらで快適なご旅行を楽しんでいただくとともに、来る大阪・関西万博に向けても、大型手荷物による公共交通機関の混雑緩和にも貢献できるものではないかと考えています。

今後は、今回の検証結果や、ご利用の状況を踏まえ、2025年の「大阪・関西万博」に向けて、その他の駅などへの設置やサービスの拡大を検討してまいります。

#### 4. 駅を中心としたまちづくり

##### 神戸～大阪鉄道開業150周年を迎えるにあたって

次に、「駅を中心としたまちづくり 神戸～大阪鉄道開業150周年を迎えるにあたって」についてです。

###### 神戸～大阪鉄道開業150周年

1874年5月11日に神戸～大阪間で鉄道が開業（関西で初めての鉄道路線）

2024年5月で**150周年**

150周年を迎える駅：神戸駅・三ノ宮駅・住吉駅・西宮駅・尼崎駅・大阪駅



初代神戸駅



1874年5月11日  
神戸～大阪鉄道開業  
(33.1km)

神戸駅

大阪駅



初代大阪駅

「駅」はお客様の集う「玄関口」として街と共に発展

**お客様の集う「玄関口」である「駅」を中心とした街づくりを推進**

1874年5月11日に神戸～大阪間の鉄道が開業してから、この5月11日で150周年を迎えます。これは2年前に150周年を迎えた新橋～横浜間の次に完成した、日本で2番目、関西では初めての鉄道路線です。

この度、神戸～大阪間で150周年を迎えることができるのは、日々ご利用いただいているお客様や沿線の地域の皆様との「つながり」に支えられてきたからであり、改めて感謝申し上げたいと思います。

その中でも「駅」は、お客様の集う「玄関口」として、街と共に発展してきたのではないかと思います。改めて駅の役割・機能を見つめなおし、さらなる発展のために尽力してまいります。

###### 大阪駅西側地区の「まちづくり」の具体的進捗

イノゲート大阪は2024年夏※ 開業します



※2024年夏 先行開業フロア  
・公共部（1F,2F）  
・バルチカ03（2F～5F）  
・オフィスロビー（6F）  
・フレキシブルオフィス（9F,10F）



**バルチカ03**

2～5階の飲食ゾーン「バルチカ03」  
出店50店舗が決定

コミュニケーションを促し、大阪の街に活力を与える場所となることを目指し、大阪の老舗、路地裏の名店から海外の有名レストランまで、全50店舗が決定しました。



■2,3階 フロアイメージ



■4階 フロアイメージ



■5階 フロアイメージ

大阪駅（うめきたエリア）地上部の施設名称が決定  
「うめきたグリーンプレイス」



UMEKITA  
**GREEN PLACE**  
うめきたグリーンプレイス

うめきた2期エリアの玄関口に  
緑豊かな都市型ショッピングセンターが誕生します



◆今後のスケジュール

2024年9月  
大阪駅方面とうめきた2期エリア  
をつなぐ歩行者デッキが開通

2025年春頃  
全面開業

中でも、大阪駅は、うめきた地下エリアが開業し、関西国際空港へのアクセスが更に便利になったことで、まさに関西の「玄関口」としての役割を果たすべく、更なる進化が期待されています。

その取り組みの一つとして当社グループが開発を進めているイノゲート大阪には、「イノバート」と「ゲート」の両方の語源から「可能性を切り拓く新たな玄関口」という意味を込めて名付けています。ビル内の飲食ゾーン「バルチカ03」についても、大阪らしいコミュニケーションを促し、大阪の街に活力を与える場所となることを目指してまいります。

今回、大阪の老舗、路地裏の名店から海外の有名レストランまで日本初出店の店舗も含め、全50店舗が決定し、その他、オフィスロビーのラウンジ、フレキシブルオフィスと合わせ、2024年夏に開業いたします。

また、うめきた駅地上部の施設について、名称を「うめきたグリーンプレイス」と決定いたしました。2024年、今年9月のうめきた2期地区の先行まちづくり時には、大阪駅方面からの歩行者デッキが開通し、うめきた公園側につながる予定です。その後、駅前広場を供用開始し、2025年、来年春には、高品質で豊かな生活を創出する都市型ショッピングセンターとして「うめきたグリーンプレイス」を全面開業する予定です。

JR WEST LABOの取り組みとも連動し、多様な人・物・文化をひきつけ、交流によるイノベーションの創出を目指します。



他にも、日本郵便様などとの共同事業である「JPタワー大阪」の開発も含め、大阪ステーションシティは西側へ拡大してまいります。今後も、お客様の集う関西の「玄関口」としての役割をさらに高め、関西・西日本の発展に貢献できればと思います。

## 神戸～大阪鉄道開業150周年プロジェクト

お客様や地域の皆さまからの支えに感謝し、「神戸～大阪鉄道開業150周年プロジェクト」を開始します。

### イベントロゴマーク



プレスリリースや専用HPにてイベント情報を随時お知らせしてまいります。

<https://www.kobe-osaka-150th.com>

### イベント情報

- 5月11日記念式典（神戸駅・大阪駅）
- 鉄道とまちの歴史パネル展
- 京都鉄道博物館150周年記念展

### 営業情報

- 150周年記念入場券の発売
- 沿線をつなぐデジタルスタンプラリー
- 網干総合車両所見学ツアー

### 商品情報

- 150周年記念弁当の発売
- 地域企業と連携した商品の発売



このように、駅を中心としたまちづくりを皆様とともに進めてきたことに感謝し、沿線の自治体や企業の皆様方と協力し、今年の4月から「神戸～大阪鉄道開業 150周年プロジェクト」をスタートさせます。本日特設のホームページをオープンしております。2024年、今年の5月11日には神戸駅、大阪駅で記念式典を行うほか、沿線の駅では、地元自治体や企業の皆様と連携したパネル展を開催する予定です。その他イベント等含め、詳細は決まり次第、改めてお知らせして参りますので、ご期待いただければと思います。